

石川県社会教育委員の令和6・7年度会議 協議題について（案）

1 社会（地域）と学校をめぐる状況の変化

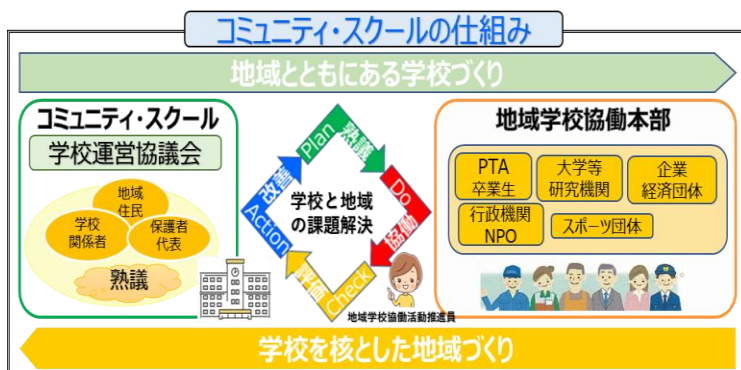
- 日本社会は、急激な少子高齢化の進行の中、人口減少局面に入って10年が経過した。さらに、東京をはじめとする都市圏へ、地方の人口が流出し、地方の更なる人口減少や高齢化に拍車をかけている。このような背景の中で、人と人との関わりや地域のつながりが薄れ、地域コミュニティの希薄化が懸念されている。
- 令和6年元旦の能登半島地震による大規模災害を経験し、地域コミュニティの重要性が再認識されるとともに、災害からの復興に向けて動きだす中で、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。
- 先行き不透明な時代において、これからの社会を形成する子供たちには、自らの人生を切り拓いていく力を身に付けていくことが大切である。そのために学校教育では、令和の日本型学校教育の構築を目指し、社会に開かれた教育課程の実現に向けた学習指導要領の着実な実施やGIGAスクール構想の推進に取り組むことが求められている。
- いじめや不登校、規範意識の低下、SNS等インターネット上の諸問題など、子供を取り巻く課題も一層複雑化・困難化しており、これらの課題への対応が教師の多忙化につながっている。今後、学校の様々な業務の精選や負担軽減など、さらなる学校における働き方改革の推進が急務である。

2 協議題

ウェルビーイングの実現をめざした学校を核とした地域づくり ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進をととして～

〈 仮説 〉

コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、熟議をととして学校と地域の課題解決に取り組むことで、学校のさらなる魅力化が進み、ひいては地域コミュニティの活性化、地域住民の幸福感につながるのではないかと



地域のウェルビーイング

学校を起点に地域が活性化

地域の担い手の育成と住民の幸福度向上

災害時の迅速かつ組織的な対応

学校のさらなる魅力化

社会に開かれた教育課程の実現

協力者や助成金等を得やすい

3 方法

- ・研究大会への参加やCSマイスター等識者の話を直接聞き、コミュニティ・スクールの仕組みや学校を核とした地域づくりについて理解を深める。
- ・県内外で先進的にコミュニティ・スクールを導入している事例をもとに、学校の魅力化と地域のウェルビーイングにつながる可能性について協議を進める。

4 開催計画

年4回開催（予定…8月、11月、1月、3月）（石川県社会教育委員に関する条例 第3条）

内 容(案)

第1回	石川県の現状と国の動向。コミュニティ・スクールへの理解を深める	第5回	県外の先進的な事例（高）をもとに、地域のウェルビーイングにつながるか協議
第2回	全国コミュニティ・スクール研究大会in金沢への参加（R6.11.8開催）	第6回	モデル校での取組が地域のウェルビーイングにつながるか協議①
第3回	県外の先進的な事例（小中）をもとに、地域のウェルビーイングにつながるか協議	第7回	モデル校での取組が地域のウェルビーイングにつながるか協議②
第4回	県外の先進的な事例（高）をもとに、学校の魅力化につながるか協議	第8回	2年間のまとめ